

社会福祉法の改正に伴い、社会福祉法人に「地域における公益的な取り組み」が求められるようになって1年。各法人が取り組みを模索するなか、社会福祉法人合掌苑（東京都町田市）は専門の部署を立ち上げ、成果を上げています。その様子取材しました。

地域から寄せられる さまざまな声を集約

合掌苑における町田市での活動は、合掌苑老人ホームをお寺から分苑することから始まりました。なじみのない土地で老人ホームを運営するためには地元地域の信頼を得ることが何よりも大切だと考え、以来、「地域の役に立つことこそ社会福祉法人の役割」ととらえ、地域住民と向き合い、そのニーズに積極的に応えてきました。

しかし、その手法は寄せられる地域の困りごとに対して、その都度、従業員が個別に反応するという方式でした。そのため対応を法人全体で共有できていないことが課題となります。そこで、2013年に地域福祉支援事務局（以下、事務局）を立ち上げます。その目的は、福祉施設として培った合掌苑の資源やノウハウを活用し、地域のさまざまなニーズに応えることです。

事務局には各部署から集められた12名のメンバーが運営に携わります。その中心となっている、合掌苑金森事業部のマネージャー、森田健一さんは次のように語りま



合掌苑金森事業部マネージャーの森田健一さん

「事務局設立のきっかけは、現在の森一 成理事長の就任でした。理事長は、『社会福祉法人として社会的責任を果たす』『合掌苑にかかわるすべての方を幸せにする』という2つのミッションを策定し、施設を利用するお客様だけでなく、地域の方にも従業員にも幸せになってもらうことを法人の明確な目標として打ち出しました。その中心的役割を担う部署として、この事務局ができたのです」

事務局設立の意義

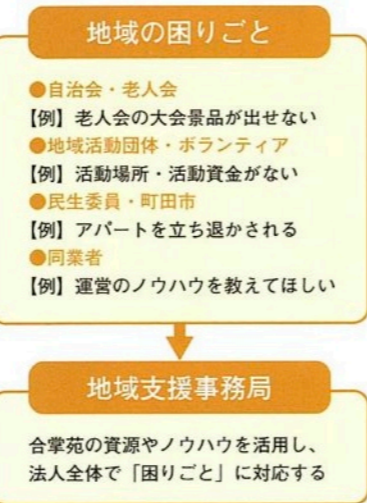
事務局の最初の取り組みは、市内の空き店舗を利用して地域交流スペースを設置したことでした。法人が住民からの相談窓口として「あんしん相談室」を開設した際に、「気軽に集まれる場所がほしい」という地域の声に応えるかたちで、自由に使える場として同敷地内にオープンしました。住民や地元企業に活用してもらおうと、見学会や、スペース利用者向けの食事提供などを行い、



お客様相談室マネージャーの神尾昌志さん

地域からの認知度は次第に高まっていきました。活動の広がりとともに、これまで別部署の経費で賄われてきた事務局の運営予算が見直されます。地域福祉積立金として資金をプールし、事務局の活動に予算を割り当てることとしたのです。また運用についても、地域住民から選ばれた合掌苑の評議員が参加する審査会を通じて決定しています。こうして、財政的な裏づけと地域の声を反映させた結果、2017年度は、①生活困窮者支援、②障害者雇用・中間就労支援、③あんしんサロンの運営（後述）、④地域活動団体の支援など、活動に広がりを見せるようになります。

事務局設立が法人全体にもたらした意義について、「それまでは地域に貢献したいという想いとは裏腹に、さまざまな制約によって、身動きが取れない状況がありました。しかし事務局の設置により、独自の方針に基づいて活動できるようになりました。また、住民の皆様から感謝の声を直接受け



今年5月にオープンした南成瀬あんしんサロン。1階（写真右上）は、台所設備が整っており、料理なども行える。2階（写真右下）は広いスペースが確保されており、団体活動が行える

取れるようになったことが、職員全体の仕事のモチベーションにつながっています」と森田さん。事務局運営に携わる神尾昌志さん（お客様相談室マネージャー）も「予算を使って活動ができることで、より実のある貢献ができるようになってきました」と話します。

地域住民の交流の場の提供

活動を広げる事務局は、「予約が可能な活動場所がない」という地域の声を受け、今年5月に「南成瀬あんしんサロン」（以下、サロン）をオープンしました。もとは合掌苑の社宅だった、町内にある2階建ての戸建て住宅を改装し、住民が活動に使える場所としたのです。「あんしん相談室」との最大の違いは、これまでにない外部組織との連携です。電球の取り換えなど、5分100円であらゆるニーズに応える事業を行う株式会社御用聞きに、サロンの管理を委託。サロンの運営とともに地域住民のさまざまな困りごとにも対応します。

サロンの立ち上げからかわってきた事務局と高齢者支援センター（地域包括支援



●施設概要
社会福祉法人 合掌苑
(東京都町田市)
開設年 1966年 (社会福祉法人化)
併設 養護老人ホーム、特別養護老人ホーム合掌苑桂寮ほか

センター）長を兼務する岡根浩太郎さん（扉頁、下段左写真）は、「合掌苑だけでは介護保険制度では対応できないニーズに応えきれませんが、御用聞きはその部分を広くカバーしています。また、御用聞きは学生も動員しており、介護業界と学生が出会う機会が生まれることにも期待しています」と話します。

現在、御用聞き職員である五十嵐憂子さん（扉頁、下段左写真）が住み込みでサロンに常駐し、まさに地域に根差した拠点として、住民の暮らしを支えています。

サロンは予約すれば、誰でも無料で利用できます。地域からのニーズも高く、フラダンスや麻雀といった趣味の活動から、地元飲食店による商品開発会議まで幅広い目的で利用されています。サロンでフラダンス教室を主催する田中瑤子さんは、「今まで別の会館を予約していましたが、このサロンを知ってからは、すぐに会場を切り替



南成瀬あんしんサロンでフラダンス教室を主催する田中瑤子さん